

おひさま キラキラ

2019



vol.203

12



はいっポーズ!

《相内地区・美園》

大武弘幸さんと麻衣さん

六花ちゃん・麦くん

(紹介は2ページです)

特集

令和元年産
農畜産物を振り返って



▲11月17日、1300人が訪れた長いも販売の様子

秋の味覚長いもを求め 1300人が来場

季節の薫り



JA主催の「長いもまつり&収穫感謝祭」が11月17日、北見市東相内の㈱マルキタ地方卸売市場内の会場で開催されました。

寒さも日を追って厳しくなり、氷点下に冷え込んだ早朝から長いもを買い求める来場者の行列ができました。

今年の長いもは、生育も良く約23トンが用意され、来場者は10キロ、5キロの箱詰め商品の規格を確認しながら購入し、中でも一番人気の3キロ500円の袋入り長いもは30分程で完売。みなさん台車一杯に積まれた長いもを満足そうに運んでいました。

会場では、牛乳の無料配布や新米のもち米、豆類、秋野菜、JAオリジナル加工商品の販売やマグロの解体実演販売も行われ、飲食ブースでは玉葱焼肉のたれを使用した焼肉丼が販売されるなど、盛会のうちに終わることができました。(辻本 均)



▲寒い中早朝より開催を待つ来場者

もくじ CONTENTS

特集	4
令和元年産 農畜産物を振り返って	4
○季節の薫り	2
○表紙紹介 「素直な優しい子に育ってほしい」	2
○地域だより	10
○ほのぼのの広場 ・きたみらい青年部 ・記念の一枚 ・プリティウーマン ・わが家のアイドル	12
○JAからのお知らせ	14
○おひさまサラダクッキング 「しらすのパラパラチャーハン」 「牛カルビ焼き茶漬け」	24

表紙紹介

素直な優しい子に育ってほしい

大武家を訪ねると、長女の六花ちゃんが泣きながら帰ってきました。お父さんに聞くと長男の麦くんと喧嘩したそうです。

六花ちゃんは優しい性格で、人のお世話が大好き。麦くんの着替えも進んでお手伝いをしてくれます。今は、サンリオキャラクターのキティちゃんグッズで遊ぶのにはまっています。食べ物では、メロンが大好きで、好き嫌いもありません。

麦くんはやんちゃ盛りで、ときどき六花ちゃんと喧嘩しますが、一緒に仲良く遊びます。アンパンマンが大好きでテレビが始まると静かに見えています。

お父さん、お母さんは、「元気で素直な優しい子に育ってほしい」と話してくれました。

写真撮影時には、六花ちゃん、麦くんも自分のポーズを決める余裕も出て素晴らしい一枚が取れました。(辻本 均)



【ご家族紹介】
左から～お母さんの麻衣さん(32)、おじいちゃん義典さん(66)、長男の麦くん(2)、長女の六花ちゃん(3)、おばあちゃん豊子さん(61)、お父さんの弘幸さん(31)
作付内容：もち米、秋小麦、てん菜、玉葱、赤玉葱など30%

令和元年産 農畜産物を振り返って

令和元年も残りあと少しとなりました。今年は、春の植付から秋の収穫まで順調に推移したことで、各作物とも平年を上回る一年となりました。主要農畜産物について各生産組織の代表者より総括していただきます。

水稲

生育順調による豊作、会員の協力に感謝

きたみらいもち米振興会 会長 沼崎 栄治



本年を振り返り、春の育苗期から耕起・移植作業等天候に恵まれ平年よりやや早く順調に進みました。生育期は平年よりやや早く、幼穂形成期は6月28日、出穂期は7月24日となり、草丈、葉数、稈長、穂長は平年並みで推移しました。その後登熟期は順調に進みましたが、地域間及び圃場間により若干の生育差が生じていました。9月に入り好天が続き適期収穫の見極めとして胴割れ粒の発生回避を強く意識し昨年より1週間早い、9月20日から刈取を開始し10月9日に農作業事故等もなく無事終了し操業日数は18日間となりました。また、受入施設



統一に向けた取り組みとして、荷受数量に合わせた受入時間の短縮及び、コンバイン稼働日数の制限を行いました。これにつきましては会員皆様の多大なるご協力を頂きましたことに感謝申し上げますと共に、新たに見えた多くの課題に対しまして、継続協議していきたくと考えております。令和元年産の水稲の反収につきましては、きたみらい平均で正産反収601kg(10・0俵)、と昨年よりも上回り、豊作となりました。また、品質については、登熟が順調に進んだことから粒張りは良好で、青未熟粒及び網下発生率は昨年を下回る見込みとなりましたが、昨年大きな問題となった胴割れ粒の発生につきましては、若干減少しましたが、品質劣化の要因となっております。

JAきたみらい産もち米(きたゆきもち)

	10a反収	等級	製品歩留	色下歩留	網下歩留
令和元年産	601kg	1等	84.4%	11.6%	4.0%
平成30年産	480kg	1等・2等	79.0%	17.0%	4.0%
平成29年産	568kg	1等	85.9%	9.7%	4.4%
平成28年産	559kg	1等	85.7%	7.4%	6.9%
平成27年産	618kg	1等	84.5%	11.5%	4.0%

麦類

天候に恵まれ高収量・高品質、次年度も期待

きたみらい麦作振興会 会長 西野 繁



本年を振り返ると、秋小麦は播種時期も順調に推移し、越冬前の生育量は天候にも恵まれ莖数過剰状態で越冬し、降雪も少なかったことから、低温による冬損(凍上害)が心配されましたが、春先の融雪が早く、起生期から出穂期までの生育も順調に推移し、出穂後も高温等に見舞われることもなく登熟を迎えることが出来ました。また「コムギなまぐさ黒穂病」は生産者の理解と努力により終息傾向ですが、情報等をより一層集め、ゼロを目指していきたいと思えます。

春小麦は融雪が早かったことから播種作業は例年より早く進み、秋小麦同様順調に推移しましたが、一部圃場では干ばつ傾向のため登熟にはら付きが見られ、収穫判断に苦労した傾向にありました。

収穫につきましては、秋小麦が7月24日から始まり8月3日で終了、春小麦については8月6日から始まり



り8月14日で終了しました。期間中前半は高温に見舞われ、後半は雨と低温になり、収穫には苦労されたかと思えます。

今年の収量は秋小麦が平均662kg、春小麦が平均449kgと高収量の上、全量1等Aランクとなりました。これは生産者皆様の肥培管理と努力の結果だと思えます。

また、生産者の皆様におかれましては、なまぐさ全筆調査に対し、ご理解並びにご協力いただき誠にありがとうございました。

今後も振興会役員一同並びに関係機関連携を図り、次年度に向けては高収量・高品質の生産に取り組んで参りたいと考えておりますので、関係各位のご協力をお願いするところでございます。

豆類

豆類の作付面積維持と品質の向上へ

きたみらい豆類振興会 会長 丸本 仁



本年を振り返りますと、春先の融雪も順調に進み、播種作業も圃場の条件が良く順調に進みましたが、一部発芽の遅れ、発芽不良が見られたもののその後は豆類全般の生育は順調に進みました。

大豆につきましては、ほぼ全量が「大粒」原料となっておりますが、収穫期間前の降雨により大豆の水分が戻り、しわ粒が目立つようになつた為、8割強が3等原料での格付けとなっておりますが、好条件下での収穫であったことから汚粒の発生は軽微となっております。

小豆につきましては、着莢数が確保できたこともあり平年作以上の収量があったものの、収穫後半のものにつきましては、一部で霜当り粒も目立つようになり、品質を著しく劣化させる事となりましたが、昨年来の品不足により価格は高水準での推移となりました。



高級菜豆につきましては、7月下旬の高温によって多くの圃場で中間莢が付かず、収量は平年より低下しました。

販売面につきましては、昨年の出回り不足から市中在庫が潤沢となっており、慢性的な供給不足と相まって新物の出回りは鈍化しております。その状況下でも国産を求め声はある事から、高級菜豆の面積維持に向けて皆様のご協力をお願い致します。

収量につきましては、大豆4・6俵、小豆4・5俵、虎豆4・5俵、大福3・9俵、白花豆3・6俵、紫花豆3・6俵となっております。

「きたみらい豆類振興会」としては各種豆類の作付面積維持と品質の向上を基本に「きたみらい豆類」のブランド化に向けた取り組みを行って参りますので、今後とも皆様のご理解とご協力を頂けます様宜しくお願い致します。

特集 令和元年産 農畜産物を振り返って

品質面においては、本年より本格導入された早生種で本州市場到着後に痛みが発生し、大変大きな課題を

本年は、降雪が少なく融雪も早かったため、移植作業については4月中旬より始まり、好天にも恵まれ順調に作業が進み、概ね連休後半に終える事が出来ました。移植終了後は干ばつ傾向となり、5月下旬には数日間わたり強風が吹き、一部の圃場では苗の傷み等の被害の発生が見られました。

6月以降も少雨傾向が続き、7月中旬から8月上旬にかけて連日の高温により、主に中晩生の収量が大変心配されましたが、平均収収6.00kgと全道平均を上回る収量を確保することが出来、日本一の産地として消費地に対しての供給責任を果たす事が出来ました。これも偏に生産者個々の日々の努力と長年取り組んでこられた土作りの結果と考えます。



玉ねぎ

品質向上、安定出荷に期待

きたみらい玉葱振興会 会長 飯田 裕之

品質面においては、本年より本格導入された早生種で本州市場到着後に痛みが発生し、大変大きな課題を

本年は、降雪が少なく融雪も早かったため、移植作業については4月中旬より始まり、好天にも恵まれ順調に作業が進み、概ね連休後半に終える事が出来ました。移植終了後は干ばつ傾向となり、5月下旬には数日間わたり強風が吹き、一部の圃場では苗の傷み等の被害の発生が見られました。

6月以降も少雨傾向が続き、7月中旬から8月上旬にかけて連日の高温により、主に中晩生の収量が大変心配されましたが、平均収収6.00kgと全道平均を上回る収量を確保することが出来、日本一の産地として消費地に対しての供給責任を果たす事が出来ました。これも偏に生産者個々の日々の努力と長年取り組んでこられた土作りの結果と考えます。

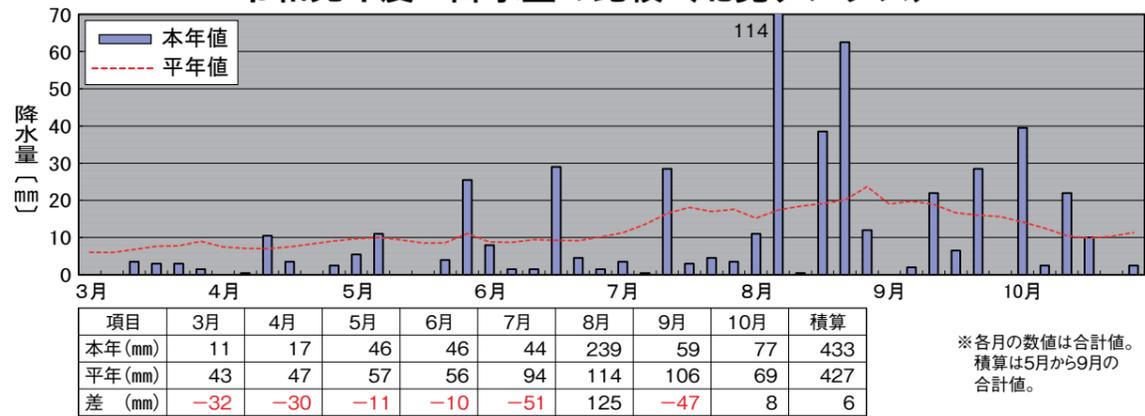
6月27日に新選果場の修祓式が関係各位ご臨席の中、盛会の内に執り行われ、8月5日より本格稼働となり順調に操業しております。本年、豊作年であり倉入れの心配がありませんでしたが、昨年完成した冷蔵庫・新選果場の高能力もあり11月上旬にすべて貯蔵庫に収まり、益々品質向上・安定出荷に期待が持てます。

超遅出し玉葱の取り組みは4年目となりの品質面での市場評価も高い状況であります。又、きたみらい玉葱



端境期短縮に向けて益前に全国の市場へ届けるため次年度より極早生根切り・出荷の3日前倒しを行う事となり、今後も時代に合った各種対策を取り組んで参りますので、会員皆様のご理解とご協力をお願いすると共に、次年度も皆様に実り多い年となる事を祈念申し上げます。

令和元年度 降水量の比較 (北見アメダス)



てん菜

予想を超える豊作、増反に期待

きたみらいてん菜振興会 会長 原 智徳



干魃に不作無しとは言われるものの、もう少し雨が欲しいなと思う事もあったような気象条件だったと思います。平年作より増収すると見込み車両確保の不安を抱えている事もあり、きたみらい平均58t/ha、糖区57t/haの見立てで10月16日に輸送開始。2日後から構内貯蔵も始めると前倒しで操業を開始しましたが、当初の予想をはるかに超える68t/haで推移しており、糖分も平均17%を超える状況となっております。豊作となっております。

ここ近年の例にもれず本年も春作業は順調に推移していました。その後の風害により約100haを再播種するなどの大きな被害に見舞われて、平年作までの回復は厳しいとされていました。輸送完了した中には回復している所もある事で、日頃の肥培管理の賜物であり自然の厳しさを突きつけられました。甜菜にとっては格好の気象条件だったと

振り返る所です。予想を大きく外す高収量となった為、糖業は構内貯蔵のかさ上げ、11月18日終了予定の構内貯蔵を構内別用途地で11月末迄さらに積み込みとなりました。当初輸送終了12月19日予定でしたが、12月29日に変更となりました。

また本年は昨今の輸送事情に鑑み計画時点でも農家貯蔵量が多くご苦労かける事になりました。さらに予定外の農家貯蔵をお願いする事となり申し訳なく思います。

思う所は色々あります。ご協力に感謝すると同時に誰も予想出来なかった大豊作に免じてお話し頂ければと思います。

スキームが変わったとはいえ64万t超過は気がかりです。今後も関係機関と共に撤廃を言い続けて参ります。

しかし今は素晴らしい出来秋に喜びと感謝を分かち合い、来年も良い出来秋となり増反に結びつけばと祈念する所です。

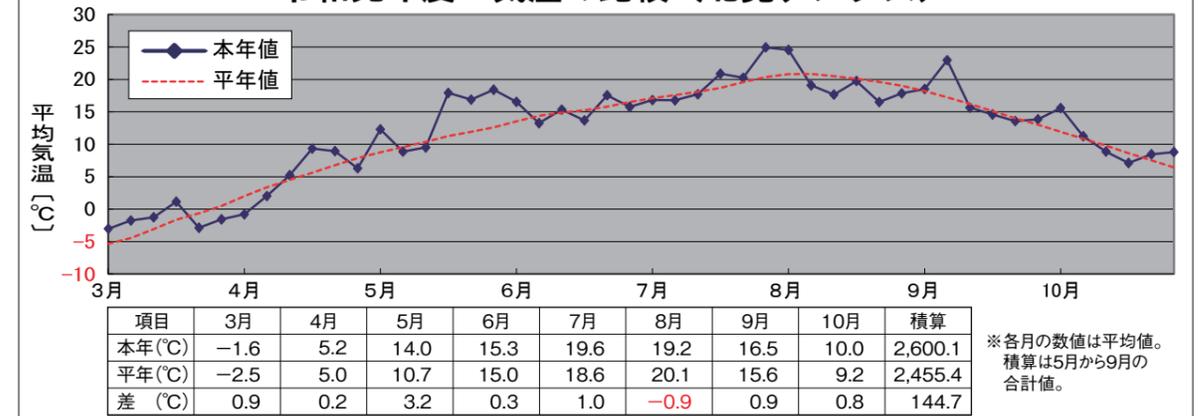


JAきたみらい産 てん菜

	作付面積	ha収量	糖分	ha産糖量
令和元年産見込	3,519.91ha	67.56	17.0%	11.496 t
平成30年産実績	3,486.82ha	51.71	17.6%	9.088 t
平成29年産実績	3,768.49ha	51.57	17.6%	9.054 t

令和元年産見込は11/26現在値より

令和元年度 気温の比較 (北見アメダス)



特集 令和元年産 農畜産物を振り返って

平成から令和へと元号が変わり、また記憶に残る年となった本年は、天候にも恵まれ、飼料作物においては昨年の天候不順による負の遺産を返して、余りある程の出来となりました。牧草においては、適期に収穫作業が進み質・量ともに良いものを確保し、デントコーンにおきましても過去最高の出来という予想に違わず米糞・収量共、高水準の粗飼料が収穫でき、今後の生乳生産に大いに期待が持たれます。

酪農情勢を見ますと、乳価も100円/kgを超える水準で推移しており、良い状況に変わりはありませんが、補助事業によるホル育成牛が増加しており、ホル初妊牛の価格も低下傾向にあります。更には、ここ2〜3年で生乳生産量が増える予測であるため、今後の生乳需給の緩和やそれによる乳価への影響も懸念されます。国際貿易協定も酪農畜産への影響をもたらすか、計り知れない部



生乳
きたみらい酪農の
更なる躍進に向けて

きたみらい酪農振興協議会 会長 中島 英樹

分でもありますので正しい情報の収集も必要になると思います。

全道的には、補助事業による規模拡大が進んでおりますが、きたみらい地域において更なる拡大（メガ・ギガ）への進展は、生産者・農協のみの範囲では頭打ちになってきており、地域・行政も含めた取り組みも必要になってくると思います。

また、本年度の農協組織改編により、新たに畜産部が設けられ、より集約的に事業に取り組める体制となりました。その分、職員にはプレッシャーのかかる中ではありますが、一所懸命に取り組んでいただいております。来年度から始まるホクレントラック事業もそれに向けて熟議を重ねられておりますが、生産者、職員含めて良い方向に進んでいければと思っております。ここで一首、

きたみらい
牛乳無くして 進歩なし
酪農立てずば 立つ術もなし
来年もまた、きたみらい農協の核の一つとして組織一同頑張るって参ります。

馬鈴しょ
「安定品質と安定供給」これが
「選ばれる産地」きたみらいの馬鈴しょ

きたみらい馬鈴薯振興会 会長 佐藤 茂樹



本年の播種作業は、土壌凍結が思った以上に入っていたため、春作業の遅れが懸念されましたが、気温も上がり、融雪も順調で、4月中旬より前進栽培（早出し）から始まり、順次一般生食・加工品種へと植付けが進み、5月20日頃には概ね終了となりました。

その後の気温は高めで推移して、5月下旬には稀にみる39度を記録、また大風による萌芽直後の葉等に一部被害もある等、気象変動が大きな生育初期でありました。

6月から7月上旬頃までは、適温と適度な降雨、日照をもらいながら馬鈴しょの生育過程では最も良好な生育経過となりました。しかし、7月下旬には高温・干ばつ傾向が数日続き、塊茎肥大も心配しましたが大きな影響をもたらさない状況となりました。

7月中旬より前進栽培の収穫が始まり、7月29日より過去最速となる

選果が開始され、過去に無いほどの大玉傾向、正歩留まりの高さから消費地からの引き合いも強く、品質面では高評価を頂きました。その後の一般栽培についても天候に恵まれ、高温・干ばつによる収穫量に懸念は「ございましたが、近年稀にみる高収穫量を記録しました。男爵の平均粗反収3,800kg/10aという過去最高の出来が確保されました。今後の馬鈴しょ栽培の大きな糧として、面積減少の歯止めも繋がればと大きく期待をしております。

また、生食品種のスノーマーチですが、試験栽培から約10年が経過し、面積も目標としていた100haを超えております。今後は、一層の消費地との連携のもと、販路拡大と面積増反に向けて取り組んで参りたいと考えております。

尚、湖池屋ポテトチップス『じゃがいも心地』の新商品として、スノーマーチを原料としたブランド化を図るなど、次年度以降の生産意欲に繋がる起爆剤となるよう大きな期待を寄せております。

肉用牛
相場に左右されない
繁殖基盤強化を

きたみらい黒毛和牛振興会 会長 今部 直廣



今年を振り返りますと、昨年とは違い天候に恵まれ1番草・2番草ともに、適期収穫ができたことが出来ました。

例年にならない良質な粗飼料を確保することが出来ました。

枝肉取引価格については、酪農家での和牛受精卵の活用などにより、屠畜頭数が年々増加傾向にあるものの、枝肉取引価格は徐々に下がってきている状況ではありますが、大きな下落までには至らず安定した一年となりました。

購買者が求める発育・血統の優れた素牛については、依然として高値で取引されておりますので、「きたみらい和牛改良戦略プラン」への取組強化と、市場相場に左右されない素牛作りを目指すため「きたみらい和牛素牛ブランドの定着」に向けて邁進して参ります。

また、一昨年導入した優良な種雄牛の精液の雌牛の生産が始まり保留牛が増えつつあります。



加工系品種では、サラダ系需要も回復傾向ですし、チップ系品種においても、カルビーの方針でもある完全国産化宣言から使用原料の更なる増産へと変革しつつあります。

令和2年度より、JACコントラクタ―事業により、馬鈴しょ収穫作業と荒選別作業が開始されますが、これにより収穫作業の負荷軽減と面積維持に繋がればと大きく期待をしております。

今後の販売については、正歩留まりの良さとも率の高さから大玉傾向でありますので、春先の販売終了まで、北海道の主要貯蔵産地の供給責任として、消費地との連携と情報共有を密に図りながら取り組んで参りたいと思っております。

会員各位の皆様のご理解とご協力をお願いするとともに、次年度も実り多い年になる事を祈念申し上げます。



◇令和元年度（31年度）生乳生産実績

	目標乳量 (t)	30年度実績対比	31年4月~10月実績乳量 (t)	進捗率
全道	3,929,009	102.6%	2,299,732	58.5%
北見管内	581,879	102.1%	338,569	58.2%
きたみらい	89,608	102.3%	51,934	58.0%

◇衛生的乳質実績（31年4月~10月）

	生菌数		体細胞数	
	(1.4万以下)	前年増減	(30万以下)	前年増減
全道	98.0%	△0.3	98.1%	0.0
北見管内	97.5%	△0.1	97.8%	0.2
きたみらい	97.8%	△0.2	97.4%	2.0

来年に向けては安定した素牛価格を望むところですが、肥育農家にとっては厳しいとの声もあり、多少取引価格が下がるとの懸念があります。会員の皆様にとっては、より一層の飼育管理と健康な素牛の出荷に向け価格下落の歯止めとなる様に努力して頂ければと思います。

来年度も会員の皆様と健康で実り多き一年であります事を祈念致します。

JAきたみらい青年部西支部は11月19日に支部研修会を開催し、部員29名が参加しました。

午前は、令和元年度第7回定例理事会で決議された無料職業紹介事業についての意見交換会を行いました。来年度、実施に向けての今後の取り組みや同事業で使用される携帯アプリ「デイワーク」の操作説明をした後、部員から質問や意見を挙げてもらいました。

労働力確保に向けた新たな取り組みとなるため、部員からは積極的に質問等が挙げられ、活発な意見交換会となりました。

午後からは北見市西相内にある「玉ねぎ集出荷施設」の見学を行いました。全国一の規模を誇る同施設は今年から稼働しており、部員は施設設備や今年度の玉ねぎの動向について学びました。

(菊池 光祐)



▲玉ねぎ集出荷施設を見学する青年部員

西地域 相内 次年度に向けて 研修会を開催

～JAきたみらい青年部西支部～



▲炊き出し作業をする小室職員(右)

東地域 端野 姉妹都市丸森町へ ボランティア活動

～復興へ向け避難所で炊き出し行～

10月中旬、大型で強い台風が東日本を縦断し各地で甚大な被害を及ぼしました。端野町と姉妹都市として親交がある宮城県丸森町も河川が氾濫し、住宅が冠水するなどの被害を受けました。今回の被害を受け端野町は、11月1日～4日の4日間ボランティア活動として関係者8名を現地へ派遣させ、炊き出しなどの支援活動を行いました。

今回、当JAからふれあい相談東グループの小室職員が丸森町の小学校2校で、うどん・カレーライス・オニオンスープの調理、避難所への炊き出しなどのボランティア活動を行いました。参加した小室職員は「被災地での炊き出し作業は、慣れないことも多くとても大変だったが、避難所の方からのお礼の言葉を頂き、このボランティア活動に参加して良かった。今後も色々な形で復興のお手伝いを行ってきたい」と話してくれました。

(大石 友和)



地 域 だ よ り



JAきたみらい女性部西支部(石井加代子支部長)と同フレッシュミズ西支部(山本理恵支部長)は12月2日、留辺蘂地区事務所で合同研修会を開催しました。研修内容は、午前の部では北見市大正地区の農業者であり、音楽活動をしている遠藤正人氏が登壇し、石井支部長からは「農業をイメージし作詞作曲された曲がある。日頃の農作業を振り返りながら聞いて欲しい」と紹介。ギター演奏・生歌を披露していただきました。この日を楽しみに参加した32名の部会員は、ギターの音色や素敵な歌声に心を癒された様子でした。

午後の部では花薄荷の橋井麻実氏を講師に招き、オリジナルハーブティーの作り方について学びました。ハーブの種類や効用、組み合わせについて講義を受け、部会員自ら調べたブレンドハーブティーを美味しくいただきました。参加者からは「ハーブについて勉強になった。効能について詳しく知りたい」と大好評の合同研修会となりました。

(森谷 弥生)

西地域 温根湯・留辺蘂・相内 心身ともに癒された 合同研修会

～西支部 女性部・フレッシュミズ～



▲遠藤正人氏と参加部会員の皆さん

南地域 置戸・訓子府 最新鋭の機械に興味津々

～JAきたみらい青年部南支部～



▲選別されている様子を見学する部員

JAきたみらい青年部南支部は、11月22日に大空町にある「オホーツクビーンズファクトリー」を部員14名が訪れ研修を行いました。

オホーツク管内14農協が参加して運営している同施設は、オホーツク管内の豆類作付け増加による輪作体系確立と豆類のブランド構築に向け建設されました。最新鋭の機械を備え、安全・安心な豆類供給に向け、産地と消費者を結ぶ場を目指しています。

同施設を管理している担当者は、「今年は、昨年に比べ収量・品質ともに良好でひとまずホッとしている。オホーツク地域は、まだまだ作付面積の増加が見込める地域であり、受け入れ態勢も整えているので、どんどん作付けしてほしい」と青年部に呼び掛けていました。

参加した部員からも良い刺激になったとの声上がり、今後の営農に役立てたいと意気込んでいました。

(大石 友和)

きたみらい
青年部



- 自分のPRポイントは「笑顔」です。誰にも負けません!
- 農業の魅力とは 第一産業として、消費者の食卓に毎日並ぶものを作ることができ、日本の食を支えるということが最大の魅力だと思います。
- 青年部活動での一番の思い出は 夏に本部で行った「部員・職員スポーツ交流会」で、他支部の人とたくさん交流できたことが思い出に残っています。
- JAきたみらい青年部の活動に期待していること やはり他地域との交流ですね! 他支部の部員と交流をする中で温根湯地区にはない作物の話の聞いたり、実際に見に行ったりしてみたいです。

今回はJAきたみらい青年部西支部の永江友大さんに登場いただきました。(菊池 光祐)

青年部での交流は
かけがえのない経験

温根湯地区・昭栄
永江 ともひろ 友大さん(25歳)

Pretty Woman
ウーマン



「参加して良かった」と
思える活動です!

訓子府地区・北栄
佐藤 まなみ 真奈美さん(30歳)

今回はフレッシュミズ訓子府支部の佐藤副支部長に登場いただきました。(森谷 弥生)

◆出身、結婚に至るまでは?

旦那さんとは幼稚園から高校までずっと一緒に、付き合うまでは仲の良い友達でした。小さいころから面白い印象だった旦那さんとは高校2年生の時に付き合いをスタートし、6年の交際期間を経て子どもを授かったタイミングで結婚しました!

私の出身は訓子府町の弥生なので、まさか自分が地元の農家に嫁ぐとは思っていませんでした(笑) 今では結婚して良かったと改めて思いますね!

◆旦那さんの素敵なおところは?

「優しい・決断力がある・リードしてくれる」ところは現在も変わらず素敵です☆

◆趣味は?

子どものお道具入れを作ったことをきっかけに、ミシンを使ってポーチなどを作ることにハマっています!他にもアイロンビーズで色々なキャラクターを作り、家の中に飾っています。

◆組織活動の魅力や今後の抱負は?

フレミズ活動に参加しているのも思えば、「参加して良かった!」と実感できることです。普段は農作業や家事、3人の子育てなど大変なことばかりですが、仕事が落ち着いた頃に始まるフレミズ活動がとても楽しみです!先日、本部活動の運動会に参加しましたが、新しい種目が増えたり恒例のお着替えリレーがあったり、わいわい賑やかでとても楽しい運動会でした。

来年は、訓子府支部と置戸支部が再編し「南支部」となり私は監事を務めることになりました。参加したいと思うような活動を提案できるよう頑張りますので、宜しくお願いします!

わが家のアイドル

元気に笑顔が素敵な人へ!

東海林家を訪れると、ニコニコ笑顔の翔君がお出迎え!約61時間の陣痛後、無事に産まれてきた当時から振りかえりお母さんの麻衣さんは、「お父さんに似て頭が大きく大変だった。顔も似ているけど唯一鼻は私似かな」と教えてくれました。

誰にでも笑顔で人見知りをしない性格の翔君は最近、絵本をペラペラめくるのにハマっていて、お気に入りの絵本でペラペラ姿を披露してくれました。散歩中にはトラックをじーっと見るようで、おもちゃはもちろんハンドルが付いているものが好きです☆

以前は離乳食が進まず大変だったようですが、歯が生え始めた現在は食べる楽しさを覚え、ご飯をもりもり食べるようになり、1番の好物はバナナです!

名前の由来は、大きな心をもち大空に羽ばたいていくようにと「翔」と名づけ、将来は「元気に笑顔が素敵な人に成長してほしい」とお母さんが話した瞬間、さっそく素敵な笑顔でこちらをチラリ、その場のみんなが笑顔になりました☆ 翔くん、アンパンマンのおもちゃでまた遊ぼうね!

翔くんは東海林健さん・麻衣さん夫妻のお子さんです。(森谷 弥生)



温根湯地区・平里

しょう
東海林 翔くん
(1歳1ヶ月)

記念の一枚



▲数十年かけて収集した旧石器

置戸町の旧石器を紹介
~30年間で数万点を収集~

置戸地区・安住

長澤 たかし 孝さん
(57歳)



小学生の時に畑や山林に落ちていた石器を拾い価値観も分からず遊んでいましたが、30歳過ぎてから、1万8千年前の旧石器が身近にあることや、置戸町は黒曜石の宝庫としても有名で、旧石器時代の石器を改めて収集し、考古学の奥深さに興味を抱くようになりました。

町の社会教育に寄与できるように、一年かけて自宅倉庫に史料館を造り4月に完成しました。

展示品は、ほぼ旧石器のもので整理しており、石器に興味がある研究者や学生も訪れています。

通常は一般公開していませんので見学はご遠慮下さいね!

尚、考古学等に興味のある方は、農事組合法人勝山グリーンファームにお問い合わせください。

(辻本 均)

◀石器を確認する長澤さん

INFORMATION

世界とともに目指す「SDGs」

国連が定めた「持続可能な開発目標(SDGs)」という言葉が、世界中で注目を集めています。「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」など17の目標が掲げられており、この目標を達成するために各国政府はもちろん、民間の企業や団体の参加と貢献が期待されています。協同組合も達成に当たり役割を果たすべき民間セクターの一つとして明記されており、国際協同組合同盟(ICA)は目標達成に向けた貢献を約束しています。

日本の協同組合でも、例えば日本生協連が「コープSDGs行動宣言」を採択し行動をすすめるなど、SDGsへの取り組みが動き出しています。JA全国女性協も「第65回通常総会の特別決議」の中でSDGsに取り組むことを決定しています。持続可能な社会の実現に当たっては、食料輸入による環境負荷や食品ロスなど、食や農に関連する課題も多く残されています。JAも地域社会の課題解決に努めるとともに、SDGsの達成へ貢献していきます。

SDGsの17の目標

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標

1 貧困をなくそう
2 飢餓をゼロに
3 健康と長寿を促す
4 質の高い教育をみんなに
5 ジェンダー平等を実現しよう
6 安全な水とトイレを世界中に
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
8 豊かになるように仕事を創ろう
9 産業とイノベーションに力をつなげよう
10 人や国を豊かにしよう
11 住み続けられるまちづくりを
12 つぶやみをなくそう
13 気候変動に具体的な対策を
14 海の豊かさを守ろう
15 陸の豊かさも守ろう
16 平和と公正をすすめる
17 パートナーシップで目標を達成しよう

【持続可能な開発目標(SDGs)】(エスディージーズ)
2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載されており、人間、地球及び繁栄のための行動計画として、17の目標と関連する169の具体的なターゲットが定められています。発展途上国を対象としたミレニアム開発目標(MDGs)を引き継ぐもので、先進国も含め取り組むこととされています。

耕そう、大地と地域のみらい。

各地域で一年の实りに感謝ささげる ～新穀感謝祭並びに収穫感謝祭執り行う～



▲玉串奉てんを行う献幣使

きたみらい地域で一年の实りに感謝する新穀感謝祭並びに収穫感謝祭が執り行われました。毎年秋にその年の実りを神々に捧げて国民の幸せと国の繁栄を祈る「新穀感謝祭」が各地域で行われています。今年、皇位に即かれて最初の新穀感謝祭は、天皇一代に一度限りの重要なお祭りとして「大嘗祭」と呼び各地域で行われました。11月15日、訓子府神社では新穀感謝祭と大嘗祭を合わせて行い、町や農業団体、振興会の代表ら60名が参列し、順に玉串を奉てんし今年の豊穰に感謝しました。



▲開会挨拶を述べる西川組合長

また、11月21日には、センター事務所で収穫感謝祭を行いました。JA役員、生産者組織連絡協議会の構成団体と組合員三組織(青年部・女性部・フレッシュミズ)の代表など51名が参加しました。事務所内に祭られた神前に参拝の後、きたみらい産のもち米で炊き上げた赤飯、豚汁、たまご、きたみらい産牛乳による昼食懇談会が行われ、各組織の代表が本年の営農を振り返って感想を述べました。結びとして青年部齊藤正廣副部長の手締め、齊藤常務の挨拶により懇談会を閉会しました。

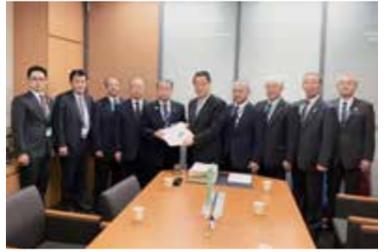
JAグループ通信

JA北海道中央会



JAグループ北海道は11月14日に東京都にて、「経営所得安定対策の単価改定」と「総合的なTPP等関連政策大綱の見直し」に向け、道内与党国会議員や農林幹部に対する中央要請、並びに農林水産省と意見交換を実施しました。経営所得安定対策では3年に一度の単価改定の見直し議論が行われていることから、輪作バランスや畑作経営に対する影響を考慮し、単価が大きく変動しない単価設定とすることや、各作物の生産振興対策などを求めました。TPP等関連政策大綱の改訂にあたっては、相次ぐ大型貿易協定の発行による、中長期的な北海道農業に与える影響が大きいと見られるため、各作物別の需給調整・価格安定対策の充実強化、生産基盤の強化に向けた対策を求めました。

今後も、北海道の農家、組合員が安心して営農できるよう取り組んで参ります。



JA北海道信連



収穫体験や調理体験等の独自イベント、「旬食力レッジ」は今年で4年目となり、今回は一般の女性の方々を対象に、8月、江別市で開催しました。また、全道各JAの協力を受け、今年度から新たに「親子で学ぼう! あぐりキッチン教室」を、全道各地で延べ25回開催しました。これらの食農教育活動を通して、食や農に対する関心を高め、JA・JAバンクのサポーターを育てる取り組みを行っています。



JA共済連北海道



JA共済連北海道は、「2019年度 JA共済全道小・中学生交通安全ポスターコンクール」の表彰式を10月26日(土)にANAクラウンプラザホテル札幌にて開催しました。46回目を迎える同コンクールは、全道より3,296点の応募をいただき、その中から金賞9作品が選出され受賞されたみなさんが表彰されました。

今回受賞された作品は、さっぽろ雪まつり会場・道庁ホールでの展示等が予定されております。



ホクレン



ホクレンと北海道米販売拡大委員会は10月17日、北海道産の2019年新米発表会を東京都内で開きました。発表会には鈴木直道・北海道知事とCMキャラクターを務めるタレントのマツコ・デラックスさんらが出席しました。ホクレン内田和幸会長より「今年は、ご満足いただけるおいしい北海道米をお届けできます」とアピールし、マツコさんはステージ上で新米を試食し、「実は一番好きなのがこの『ふっくらんこ』」と楽しいトークで盛り上がりました。



JA北海道厚生連



10月23日(水) ホテルポルスター札幌において、令和元年度北海道福祉のまちづくり賞の表彰式が行われ、JA北海道厚生連特別養護老人ホーム摩周が公共的施設部門の「北海道福祉まちづくり賞」を受賞しました。この賞は福祉的配慮に優れた公共的施設等におくられるもので、福祉・建築・市民活動等の有識者で構成する会にて審査が行われ表彰が行われました。この賞を機に施設としての充実だけでなく、入居者の皆さんの生活の充実に向けて更なる向上を目指したいと思っております。



JAグループ北海道の連合会・中央会の活動内容を紹介します。各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。

がんばれ!日本の農業

耕そう、大地と地域のみらい。 JAグループ <https://org.ja-group.jp/>

INFORMATION

青年女性ネットワーク

青年女性ネットワーク

大盛況の運動会

JAきたみらいフレッシュミズ運動会

JAきたみらいフレッシュミズ（仲山美知会長）は11月14日、訓子府町スポーツセンターにて会員交流研修会として運動会を行い、会員39名が参加しました。

この運動会は平成16年から毎年開かれ、今年で16回目。4つある支部の交流を目的として行われており、今年も支部混合の4チームに分かれ、団結して競技に挑みました。仲山会長は「この研修会をきっかけに

会員の皆さんの仲が深まり、街角で会っても、気軽に声をかけられるような仲間になればと願っています」と挨拶。役員の森梓理事、山本理恵監事が「会員の健康と親睦を図るために、女性らしく優雅に、若々しく、時には勇ましくプレーすることを誓います」と選手宣誓しました。

参加者は借り人競争など定番競技のほか、本部役員が考案した新競技など7種目に挑戦しました。最終種目の「作業着お着替スリラー」では、接戦の末アンカーがゴールすると大きな歓声があがり、お互いの好プレー

に歓声や拍手が送られました。運動会の終了後は訓子府町公民館に会場を移し、懇親会が行われ、役員が考案したチーム対抗のゲームでさらに交流を深めました。



▲開会挨拶を行う 仲山会長



▲挨拶を述べる 西川組合長



▲選手宣誓をする 森理事（左）、山本監事（右）



▲キャタピラリレー



▲お菓子喰い競争



▲参加者全員で記念撮影



▲ごくごくタイム

幅広い交流をして有意義な1日に

JAきたみらい女性部 部員交流研修会

JAきたみらい女性部（河野由美子部長）は11月18日、北見市民会館にて部員交流研修会を開催し、前回から組織間での交流を目的に参加呼びかけをしているフレッシュミズ会員5名を加え97名が参加しました。

同研修会は平成18年から隔年で開催されており、今年で8回目。開会にあたり河野部長は「今年の農作業の疲れを吹き飛ばし、参加者同士で幅広く交流をして有意義な1日にし

てほしい」と挨拶をし、来賓の当JA 齊藤和雄代表理事常務からは日頃の女性部活動に対するの激励と祝辞を述べました。

午前の部は株式会社オーロラキッ

チンから南極料理人として有名な西村淳氏が「知らない世界の話をしよう」と題し講演。南極での経験を踏まえ、パワーポイントを使って、コーラを使った肉じゃがの作り方などアイデア料理を紹介しました。また、南極で出会った動物やオーロラなどの自然の風景を紹介するなど普段ではなかなか聞けないような話に参加者は耳を傾けていました。

午後の部は「ドライフラワーアレンジメント講座」「姿勢改善ストレッチ講座」「コーヒーの淹れ方講座」の3つの研修会を開催。参加者はそれぞれ興味のある内容の講座へ参加し、更なる部員交流を深めました。



▲祝辞を述べる齊藤常務



▲開会挨拶を述べる 河野部長



▲南極でのエピソードを伝える講師の西村氏



▲西村氏の講演に耳を傾ける参加者



▲ドライフラワー作りを行う参加者



▲おいしいコーヒーの淹れ方を学ぶ参加者



▲ストレッチを行う参加者

オホーツクJA青年部研修大会

オホーツクJA青年部協議会は11月11日、ベルクラシック北見で第49回オホーツクJA青年部研修大会を行いました。



▲パネルディスカッションの様子



▲青年の主張を発表する中根氏

「ステップアップ!!」新たなステップへ」を大会テーマに掲げ14組から180名が参加。オホーツクJA青年の主張発表大会、パネルディスカッションのほか、農村ホームステイ受入実績発表、動画コンテストが行われました。きたみらい青年部からは動画コンテストの出演と、青年の主張に南支部の中根部長(訓子府)が出演し「農業と私」というタイトルで新規就農に至った経緯を語りました。



▲グループディスカッションの様子

パネルディスカッションでは、道青協副会長の米森氏とオホーツク農青協会長の桑名氏がコーディネーターとなり、「青年部とは」のテーマで各単組部長がパネラーとなる形式で回答し、会全体で情報共有を行うことができました。その後、「これからの青年部に必要なこと」をテーマにグループディスカッションを行い、組織活動の必要性を再確認しました。



▲中根氏の受賞



▲各種表彰状

夕食の懇親会では、オホーツクアイムレッシング大会と純農Boyオーディション選考が開催され、アイムレッシング大会では東支部の豊原部員(北見)が出演しました。大会の結果は、動画コンテストでは優秀賞を受賞。青年の主張を発表した中根氏については最優秀賞を受賞。「貴重な体験ができて良かった」と感想を述べました。またアイムレッシング大会に出場した豊原氏については惜しくも決勝戦で敗退。「相手が強かった!」と悔しさを滲ませていました。動画作品と中根氏の主張論文については12月5日に開催される全道JA青年部大会でオホーツク代表作品として発表されます。

「青年の主張」で最優秀賞受賞!!

今回、オホーツク青年部研修大会においてJAきたみらいを代表して、中根正登氏が「青年の主張」を発表しました。その発表内容を一部省略してはありますが、ご紹介致します。

「農業と私」 JAきたみらい青年部 中根 正登

私は平成31年1月1日新規就農を訓子府町にて行いました。私は新潟県南魚沼市で生まれ育ち、高校卒業するまで生活していました。両親はスキー場にてペンション経営をしていた事もあり、物心ついた頃にはアルペンスキーをしていました。大学を卒業するまでアルペンスキー選手として活動しており、妻との出会いもアルペンスキーの大会で、お互い選手として知り合ったのを縁に結婚しました。(中略)妻の実家は訓子府町で玉葱専業の農業を営んでおり、大学時代の夏休み期間中にスキー仲間と農作業の手伝いをした時に、今まで感じた事の無かった解放感や達成感を感じたことや、北海道の農業経営規模の大きさと、その規模を補うトラクターや作業機械等に圧倒され、日常では体験できない経験ができたというカルチャーショックがきっかけとなり、北海道に移住して平日はサラリーマン、休みの日は妻の実家で農作業の手伝いをすることで、この感覚を日々感じられると思い、一大決心をし、北海道へ移住することにしました。

その後はJAや訓子府町を通じて就農に向け準備を進めていき、農作業経験が全く無い私はずいぶん経営継承できない為、農林水産省の「農業次世代人材投資資金(旧青年就農給付金)」制度を利用し、就農までの2年間を就農元で研修を行い、農業の基礎知識の習得に励みました。この研修農場は花卉園芸と玉葱の複合農業でした。玉葱の収穫作業など多少の経験はあったので一連の流れはイメージ出来ていました。だが、花卉園芸に対しては全く無知であった為、研修の2年間は必死に基礎知識の習得や品種名、蕾の上がった姿などを徹底的に頭に叩き込みました。ですが農業は毎年同じようにはいかず、天候や気温などの環境状況によって柔軟な対応が出来ないと全くうまくいかないという厳しい現実と直面し、身をもって体感することになりました。

JA青年部の加入については、研修期間の間に同地区青年部の方から「JA青年部に入らないか?」と声を掛けていただき加入したのがきっかけです。私はここ訓子府町が地元では無い為、知り合いなどもなく、仲間作りにはまず青年部活動に積極的に参加して横のつながりを広げようと考え、加入する事にしました。加入後は皆さん温かく迎え入れてくださり、打ち解けるのも早かったです。青年部の活動では、町内のお祭りにJA青年部が作成した行灯を引っ張って練り歩く行事にも参加させて頂きました。青年部活動に参加する事で、作物の栽培方法の相談や、経営に対してのアドバイスなどの情報交換ができることは、私にとって大きな糧となっています。

また、JA青年部という組織活動でも同様に、青年部員が密に情報交換を行い、組織全体を盛り上げていく事で、個々の能力の向上や、時には刺激になり、作業意欲の向上に繋がっています。私にとって農業に携われる毎日が挑戦であり、日々変化する環境の中でとても充実した生活を送れています。1日1日に満足し奢る事なく初心にかえて日々挑戦し続け、安定した作物の生産を行っていきたいと思います。また青年部活動においても今後積極的に参加し、微力ながらも組織全体の盛り上げに関わっていければと思っています。

INFORMATION

第10回 理事会報告

11月21日、午後1時30分より第10回定例理事会が開催され、報告事項11件、決議事項6件が協議され、原案通り承認されました。

【報告事項】

- ①組合員状況報告について
- ②財務状況報告及び決算見込について
- ③反社会的勢力等との取引排除にかかる対応状況について
- ④疑わしい取引の届出状況について
- ⑤JAきたみらい地域女子会開催結果報告について
- ⑥スマート農業の推進について
- ⑦R元年産馬鈴しょ・玉ねぎの選果販売状況について
- ⑧R元年産馬鈴しょ・玉ねぎの概算金について
- ⑨2019長いもまつり収穫感謝祭実績について
- ⑩R元年産麦類の生産実績について
- ⑪JA玉ねぎ茎葉処理施設導入について

【決議事項】

- ①出資減口について
- ②固定資産の取得について
- ③規程類の制定及び改正について
- ④年末手当の支給について
- ⑤「ホクレントラック訓子府事業所」の実施要領及び実施細則の制定について
- ⑥令和2農業年度事業推進方針について

秋の農業用 廃プラスチック回収

当JAでは11月7日から8日までの2日間、西相内小麦乾燥調製貯蔵施設内で農業用廃プラスチックの回収を行いました。組合員宅から運ばれてきた廃プラスチックは、運送業者の協力のもと積んできたトラックから降ろされ、山のように積み上げられています。集められた廃プラスチックは燃料として分別され、12月上旬から処理業者へ運搬されていきます。



▲リフトで廃プラの回収作業をしている様子

土壌凍結深制御技術の実装に向けたシンポジウム開催



▲実践事例を説明する水留さん

11月12日に土壌凍結深制御手法の技術拡張とシステムの実装に向けた現地講習シンポジウムを当JAの訓子府地区事務所で開きました。近年、初冬の積雪が多くなり、雪による断熱作用が働き土が深くまで凍らない年が多いのが問題となっていました。そこで、平成29年からの3カ年において当JAは、農研機構を中心に道総研北見農業試験場や生産者などの農業関係者と協力しながら、イノベーション創出強化研究推進事業を活用し、土壌凍結深制御の技術普及に向けた研究を進めてきました。



▲取り組み内容を説明する畠山調査役

シンポジウムでは、生産者や関係機関などから約120名が参加し、各関係機関より最適土壌凍結深を30cmに制御することで、野良イモの防除、土壌の理化学性改善、土壌水分の制御およびこれに伴う肥料成分などの物質移動の制御等により、様々な農地管理対策が可能になる等の研究成果が報告されました。

生産者を代表して、訓子府町福野の水留亮さんが「雪踏みをする事で野良イモが全く発生しなくなった。土も昔のようにこなれて作業性も向上し、硝酸態窒素の流亡防止も図ることができるなど、雪踏みによる効果を実感している。何より、手取りでの除草が減ることで除草にかかる労力が極端に減った」と実践事例を報告しました。また、当JAより経営支援部ふれあい相談南グループの畠山調査役が「JAきたみらいに於ける土壌凍結深制御技術の取り組み」について報告しました。

当JAの雪踏み施工面積は約2,200畓、施工戸数は約165戸と年々増加しています。

新車 早期予約キャンペーン
 JAグループ X スキ X スバル
 令和元年11月15日(金)～令和2年1月15日(水)契約分まで
 登録期間は令和2年1月1日～3月31日まで

軽トラック 期間中、キャリイまたはワンボックスの新車をご契約で付属品プレゼント!
 エスエス キャリイ / エスエス ワンボックス

軽バン 期間中、エブリイまたはワンバンの新車をご契約で付属品プレゼント!
 エスエス エブリイ / エスエス ワンバン

乗用車 ススキ 期間中、ススキの乗用車5万円分もれなくプレゼント!
 ラゴナ / ワゴンS / スイフト / ラゴナS / イクニス / スパシア

CARRY
 キャリイ
JA特別パッケージ

安全装備も充実でお手頃価格
 軽トラック 109.8万円
 さらに安全装備が充実!
 ライト仕様にもプラス20,000円です!

EVERY JA特別パッケージ
 軽バン 130.0万円 / 139.2万円

スノーマーチのポテトチップス 「湖池屋 じゃがいも心地」店頭販売にてPR!!



▲スノーマーチとポテトチップス

11月18日より(株)湖池屋と当JAがコラボして開発したポテトチップスが全国各地のスーパーで販売されています。今回、同社と当JAではスノーマーチの知名度向上、ブランド向上を目指しポテトチップスを開発しました。全国の大人から子供にまで届けることで、生産・販売・消費者との絆づくりに取り組み、多くの人たちにスノーマーチの魅力発信を目指しています。

19日には、イオン北海道北見店で販売ブースを設けて店頭販売が行われ、来店客の目を引いていました。

当JA馬鈴しょグループ古里マネージャーは「ポテトチップスを全国に展開するのは初の試みであり、これをきっかけに全国の消費者にスノーマーチがどんどん広がれば」と期待を寄せていました。

▲店頭販売の様子

まちがいさがし

Bのイラストには、Aのイラストと違う部分が5カ所あります。間違っている部分を右下のイラストの中の数字でお答え下さい。

A



B

出題・イラスト：酒井栄子



11月号まちがいさがしの当選者

11月号のまちがいさがしの答えは「4、5、6、7、12」でした。正解者41名の中から抽選の結果、当選者は次の方々です。

()内は地区名

- 菅原 征子さま (端野) ・ 樋口 和義さま (端野)
- 合田まゆみさま (上常呂) ・ 大関 悦子さま (温根湯)
- 澤山 亜紀さま (留辺蘂) ・ 中村ひとみさま (置戸)
- 井関 晴美さま (訓子府) ・ 上原 優人さま (訓子府)
- 川畑真佐子さま (訓子府) ・ 濱野 慎悟さま (訓子府)

以上の方々には、JAきたみらいの「白花美人」3袋をプレゼント致します。



応募方法

答えが解った人は、別紙の応募用紙に答え(番号)と広報誌へのご意見・ご感想を記入してFAXでご応募下さい。抽選で10名の方に、JAきたみらいの「北見玉葱焼肉のたれ」と「黒酢が入った玉ねぎドレッシング」をプレゼント致します。

㊦ ッピングトレーラー、市内を走るのを想像するだけでも楽しくなります。春菊の冷凍保存は知りませんでした。色々利用してみます。(北見地区 田中 千鶴さん)

ラッピングトレーラー、先日市内で走っているのを見ました！多くの方に、走っているところを見てもらいたいです。これからも多くの情報を発信していきますので、よろしくをお願いします。

㊧ つも楽しみにしています。農作業も一段落して、事故なくケガなく無事に終わりに安心です。(留辺蘂地区 荒 喜代隆さん)

いつもご覧いただきありがとうございます。農作業事故ゼロ運動を行っています。

多くの組合員が、これからもケガがないよう細心の注意をよろしくお願いします。

㊨ 花美人大好きです!! 当たるといいな! もちろんおひさまサラダも大好きです◎ (温根湯地区 大関 悦子さん)

白花美人、美味しいですよ! おひさまサラダ愛読いただき、ありがとうございます。これからもよろしくお願いします!

㊩ 年初めてGPS付きトラクターでロータリー掛けをしました。

ハンドルを持つなと言われじっと見ていました。70になっても、80になっても乗っているのかな。まさかこんな時代が来るなんて。(端野地区 菅原 征子さん)

ついに操縦する必要がなくなりましたね! 機械の改良が進み、どんどん手作業が少なくなってきました。時が進むほど、これからも進化していくことでしょう!



ベジタブルライフ

イラスト：小林祐美子

ワサビ

～日本原産の香辛野菜～

ワサビのプロフィール

【分類】アブラナ科ワサビ属
【原産地】日本
【おいしい時期(旬)】
根ワサビ 11～2月、花ワサビ 3～4月
【主な栄養成分】
アピリンからし油(イソチオシアネート)、
ビタミンB₁、B₂、Cなど

見分け方

- 緑色が鮮やかでみずみずしい
- 鮮度が落ちると緑色が薄れて黄色味を帯びて部分的に黒くなる
- 大きくなっても手に持つとずり重みを感じる
- 重いものは水分をしっかりと含んで肉質も緻密
- 根茎は中太で、根元から茎が付いている上の方まで円柱形に近く形が整っている
- 表面の凹凸の目が詰まっている
- ゆっくり成長すると肉質が緻密でおいしい硬向の目がまばらなのは早く育った証拠

保存方法

数日で使い切る

冷蔵保存
水で濡らせた新聞紙やペーパータオルなどで包み、ラップをするかビニール保存用袋に入れて冷蔵庫へ

冷凍保存
使う際は凍ったまますりおろそうラップでしっかりと包んでおくと冷凍するすりおろして冷凍すると香りが飛んでしまう!

長期保存
ガラスなどにワサビを立て入れ、頭が出るくらいに水を張って冷蔵庫に入れておく。小まめに水を換えれば1か月は保存可能

ワサビの子カラ

毒消し作用
香りの食事に欠かせない食材、食中毒の原因菌の増殖を抑える

辛味成分
アピリンからし油(イソチオシアネート)類の揮発性で、すりおろして細胞が壊れる際に酵素の働きで生まれる。鼻にツーンとする特有の刺激!

0-157
細菌(大腸菌)の増殖を抑える

楽しみ方・食べ方のコツ

すりおろし方

- 茎を外側から引本すつ芽にむしり取るか、根元から切る
- 根の外皮の黒い部分を取る
- 目の細かいおろし器で、茎の方から力を入れずゆっくりに力をこめておろす

ポイント

- 茎に近い方が辛みや香りが強い
- 目の細かいおろし器がお薦め
- 金物の場合はおろした直後やかき混ぜる!
- 3～5分 → 30分
- すりおろして3～5分が辛みと香りのピーク!
- おいしく感じるのはその30分後

おいしい食べ方

刺身
あっさりとした白身などは少なめでほんのりと、赤身や脂の乗ったトロは多めでしゃりしゃりワサビを利かせるのがお薦め

そば
そばの合間に少量を直接口に運んでお口直し!

しょうゆに溶かす
すも風味が濃くなる

刺身の上に乗せる
そばつゆに入れてしまうとうま味が濃くなる

そばつゆに入れる
そばの上に乗せると風味が濃くなる

ワサビのいろいろ

沢ワサビ (別名:氷ワサビ)
山間地の豊富な湧き水や清流を利用して栽培。水温10～15度で生育。澄んだ豊富な水を大量に必要とする。日本でも栽培地が限られている。一般に「ワサビ」といえば、主に沢ワサビを指す

畑ワサビ (別名:種ワサビ)
沢ワサビと植物学上は同じだが、区別は栽培上の相違。直接流水を流すことなく、湿気が多く涼しい土地(畑)で育てたものを「畑ワサビ」と呼ぶ。栽培が比較的容易だが、品質は沢ワサビに劣る

ホースラディッシュ (別名:西洋ワサビ)
欧州北部(フィンランド地方)で主に栽培される。西洋ワサビといわれ、種ワサビなどの原料にもされる。色は白っぽい。風味は日本のワサビと非常に似ている

ワサビのじみツ

栽培
日本原産の多年草で学名は *Wasabi japonica*。江戸時代初期から栽培が始まる

歴史
和名は「山葵」が葉が紫(あお)りに似ていて徳川家の家紋にそっくり

江戸時代(文化・文政年間)
ワサビ付きの「にぎりずし」が江戸で大ブームに

大正～昭和
粉ワサビが登場。生おろしワサビに代わ

食材の生臭さや細菌の増殖を抑える!

おひさまサラダ COOKING
 ♥おいしいもの大好き!♥

しらすのパラパラチャーハン



◆ 材料 (2人分) ◆

ご飯 …………… 茶わん2膳分
 卵 …………… 2個
 ゆでて刻んだブロッコリー …………… 適宜
 しらす …………… 50g
 サラダ油 …………… 大さじ1と1/2
 顆粒(かりゅう)だし …………… 小さじ1
 水 …………… 大さじ1
 塩、こしょう、しょうゆ …………… 適宜

◆ 作り方 ◆

- ① ボウルに卵を割りよく混ぜ、熱いご飯を入れて手早く絡める。
- ② フライパンにサラダ油を入れよく熱し、①を入れ強火でパラパラになるまで炒める。
- ③ いったん火を止め、塩、こしょう、しらす、ブロッコリーを入れ再び炒め、なじんだところで水、顆粒だし、しょうゆを入れサツと炒めて出来上がり。

アドバイス

ブロッコリーに替えて刻んだダイコンの葉や小ネギなどを加え、チャーハンを楽しんで。

牛カルビ焼き茶漬け



◆ 材料 (2人分) ◆

牛カルビ …………… 50g
 塩 …………… 少々
 ご飯 ……茶わん1膳分
 昆布茶 ……小さじ1/2
 刻みのり …………… 適宜
 小ネギ …………… 適宜
 おろしワサビ ……適宜

だし
 かつおだし …………… 150ml
 薄口しょうゆ ……小さじ1/2
 塩 …………… 少々

◆ 作り方 ◆

- ① だしの材料を鍋に合わせて入れ火にかけ沸かす。だしは注ぎ口の付いた器(急須)に入れる。
- ② 茶わんにご飯を盛り付け、昆布茶を振る。
- ③ フライパンをよく熱し、軽く塩をしたカルビをカリッと焼き上げ②にのせ、①を注ぎ、上におろしワサビ、刻みのり、小ネギをのせて出来上がり。

アドバイス

牛カルビはある程度脂が多いほど、だしに溶け出しうま味が増す。

※ 献立を監修した人 ※ 茨城県笠間市にある「キッチン晴人(ハレジン)」オーナーシェフ 永井 智一(ながいとまさ)

編集後記

- ・ 早いもので2019年も12月を迎え、新年もすぐそこです。皆様の一年はいかがだったでしょうか？今年も、収穫作業もスムーズに進み、終わってみれば、ほとんどの作物が平年を上回る出来秋でしたね！
- ・ 12月は、楽しい忘年会、クリスマスと飲食機会が多くなりますので体調管理に注意が必要です！
- ・ 今年もおひさまサラダをご愛読いただきありがとうございました。風邪などにかかることなく良い年をお迎えください。(辻本 均)

JAきたみらい概要

(令和1年11月15日現在)

- ・ 組合員数(正) 1,664人
- ・ 組合員数(准) 6,308人
- ・ 組合員戸数(正) 978戸
- ・ 貯金 108,778百万円
- ・ 貸出金 16,555百万円
- ・ 出資金 4,855百万円